



シリーズ！ 活躍する2019年度日本ITU協会賞奨励賞受賞者 その11

株式会社ゼウス m_katsura@zeusinc.jp
https://www.zeusinc.jp



ICT社会で重要とされるSE人材育成の推進は途上国の発展を図る上で重要であり、第一歩としてミャンマーで無償の日本語教育とプログラム・SE教育を行い現在までに25名のSEを育成。日本で2名の雇用を実現し、日本での人手不足解消とミャンマー ICT業界の発展に貢献。ビジネス発展に大きく貢献できる基礎を作り上げたことは大きな功績として評価できる。

ミャンマーでのICT人材育成

「チェーズーティンバーデー」

ミャンマー語で、「ありがとうございます」という意味です。

この度は、栄えある日本ITU協会賞奨励賞をいただき、誠にありがとうございます。日本ITU協会の皆様、ご推薦いただいたPTC日本委員会の皆様、そしてこれまでお世話になった日緬双方の関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。

今回は、ITU-Dの取組みとして評価いただいた、この「ミャンマーでのICT人材育成」についてご紹介させていただきます。

そもそもなぜミャンマーなのかということですが、ミャンマーは国連の定める後発開発途上国（LDC）に指定されており、特にサポートが必要な国となります。

しかしながら、このサポートの精神よりも、現地訪問時に感じたことがミャンマー進出の大きなきっかけになりました。

それは、「今、自分たちは成長している」「これからどんどん変わる」「自ら国を変えていける」という現地の方々の前向きで力強い思いと、それに追いついていない環境があることを認識したことでした。

つまり、「希望はあり環境が無い今のタイミングで関わるからこそ、この国の国造りの一端に関われる可能性がある」と強く実感したのです。

後発開発途上国であるミャンマーは、とにかく人材が足

りません。人そのものはたくさんいるのですが、現代における産業を担うのに必要な高度教育を受けている人間があまりに不足している。そうであれば、新しい時代を担うに足る人材を輩出するお手伝いをしたい、と考えました。

弊社は日系のICT企業です。そのため、日本語とICTの教育を行っています。教育後は、日本語が話せるエンジニアとしてオフショアで働いてもらう、もしくは日本へ呼んで働いてもらうということが当面のゴールとなります。そして日本型のICTシステム構築の技術を学び、いつかはミャンマーへ戻り、国のICT化を支えるリーダー人材になってもらう。ここまでが目標です。

現在ですが、ミャンマーにおいてもコロナ禍の影響を受けております。

現地では下記の行動制限が発生しています。

- ・22時～4時までの夜間外出禁止令
- ・5名以上のプライベートでの集会禁止

これらの問題に対応するため、弊社ではリモート授業を開始しております。

どんな状況下においても、「誰かの課題を解決する」のが仕事の本懐かと思えます。

皆の課題が変われば、対策も変わり、そこに新たな仕事の種も生まれるはず。

弊社も悩みながら変革に取り組んでまいります。



株式会社タナビキ

n-tanabiki@tanabiki.com

https://tanabiki.jp



ペルー等、日本の地上デジタル放送採用国における緊急警報放送システム（EWBS）導入・普及に向けて、対象国のニーズに適合した低コストで簡便なシステムを提案。デモンストレーションや現地技術者育成等を積極的に行い、EWBSの導入及び活用の意向がある採用国に対し、より便利なEWBS運用及び対応受信機の普及を推進し、EWBS導入・普及に貢献した。

海外への緊急警報放送システム導入・普及の取組み

このたびは日本ITU協会賞奨励賞をいただき誠にありがとうございます。日本ITU協会様、総務省をはじめ緊急警報放送海外普及推進関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

弊社は産業用電子機器のファブレスメーカーで、主にテレビ放送用機器の開発設計を行っています。製品の中に放送TS伝送装置があり、この用途についてDiBEGメンバーの阪口氏にご相談したことが、EWBS（Emergency Warning Broadcast System）に携わるきっかけになりました。

EWBSは地デジテレビ放送を用いて警報を発報するシステムで、ISDB-T方式の特長のひとつです。中南米を中心としたISDB-T方式採用国がターゲットとなります。既存のテレビ放送設備にわずかな機器を追加するだけで運用できます。

海外の人々にEWBSを理解、導入してもらうためには、送信インフラと受信端末をセットで提案していくことが重要と考えました。そこで最初に取り組んだことは、放送TS伝送装置にEWBS挿入機能を組み込むことと、EWBS受信モジュールの開発でした。EWBS受信モジュールがあれば、テレビやSTBのような受信機のほか、例えば街頭のサインボードや防災スピーカーなどにも応用できます。ご協力会

社により、このモジュールやそれを組み込んだサインボード装置が製品化されました。

総務省の実証事業等を通し各国で実演したところ、皆そろって「いいね」という反応で、「欲しい」という声が多く寄せられました。ところが、なかなか導入には至りません。国ごとに発生する災害が異なるため、日本で考えられる用途だけでは十分ではありません。EWBSだけでは使い方が限られるため、日常の情報配信や、防災組織内の情報伝達手段にも使えるような機能を要望されました。このため、ARIB規格の範囲内で仕組みを構築することが必要でした。さらに大きな課題は、それぞれの国々において、どの組織がどのように情報を発信するのかといった運用体制の構築で、政府機関への支援が大変重要でした。総務省をはじめ関係各位のご尽力により、少しずつ事態が前進していきました。

現在このシステムは、ペルー、エルサルバドル、コスタリカ、ブラジルに設置されています。まだ試運転を始めようという段階なので、今後は、これらの国々で有効に活用してもらえるよう支援を続けること、まだ導入されていない国々でも採用されるよう働きかけることに取り組んでいきたいです。